



**11月の活動報告 テーマ:班会議の怖い道**

**2日(土)~4日(月) 遠征登山キャンプ**



台風の影響により2度の延期を余儀なくされた「2019 ボーイ隊遠征キャンプ」が、くまスカウトのボーイ隊体験キャンプを兼ねて田沢湖キャンプ場を野営地についに実現しました。ボーイスカウト2名、くまスカウト3名、指導者4名が参加しました。中井班長、橋本班員がくまスカウトを連れJRとバスを乗り継ぎ予定道程に無事に会場に到着。季節柄気温が下がること、日暮れが早いことから、テント泊はせずに宿泊はバンガローを使用しましたが、生活の拠点は野外です。初日は設営の後夕食準備をしましたが、夕食を食べるころにはあたりは真っ暗になっていました。夜の集いでは「自分の名前の由来」が話題となりました。2日目は自分で作ったおにぎりを持って田沢湖一周ルックワイドハイキングにGo! 県民の森では全国各都道府県の木が日本地図のように植えられていました。クニマス未来館では館長さんが丁寧に説明をしてくださりました。クニマス間を出発すると間もなく雨が降ってきました。やはりボーイ隊がハイキングをすると雨です。たつこ像までの10kmは徒歩。以降はバス移動し、途中10分間停車中に御座の石神社を参拝、びゅうの森で下車し、ハートハーブで安眠枕やハーブせっけん、マグネットなどの手作り体験を。ハイキングの日は「東風の湯」で疲れを癒してきました。夕食後の夜の集いは、田子団委員によるエネルギーのお話を。最終日は撤営後、近くの田沢湖畔を散策し、10時から田沢湖キャンプ場の今シーズンクロージングイベントに参加し、つくたてのお餅を頂いた後に帰路つきました。

**17日(日)班集会(お楽しみ会準備)**



残念ながら響希君一人の参加でしたが、準備が着々と進められていたようです。パワーポイントを使った発表に挑戦するとのこと。次回は全員揃うといいですね!

**12月の活動予定 テーマ:大きな歌**

**①1(日) 大絵馬奉納&班集会**

集合: 9:30 (総社神社集合)  
 場所: 総社神社&スカウトハウス  
 訓練用具: スカウトセット・昼食用おにぎり  
 お楽しみ会の発表に必要な物  
 内容: 大絵馬奉納  
 お楽しみ会の発表の準備  
 発表内容 初級: 日本の国旗について  
 2級: 秋田市の姉妹都市について  
 解散: 15:00

**②2(日) 団集会「お楽しみ会」**

集合: 9:00  
 場所: 川尻コミュニティセンター  
 内容: お楽しみ会  
 訓練用具: スカウトセット・発表の準備した物  
 解散: 14:00頃



出欠連絡: 通常の集会は、集会の3日前まで隊長代行へ  
 Tel.080-5222-2314

※ 必ずスカウト本人が電話連絡すること。

**スカウトの豆知識 【スカウトの祝声: いやさか】**

「いやさか(弥栄)」は、日本古来の純粋な「やまとことば」で、「ますます栄える」という意味があります。日本でスカウト運動が始まった大正11年、世界各国のスカウトは自国語の祝声を持っていたため、日本連盟はこの「いやさか(弥栄)」を祝声として採用しました。ゲームの勝者に対して称賛するときや、感謝の気持ちを表すときに使う日本のスカウティング独特の祝声で、称賛や、「万歳」「おめでとう」「ありがとう」といった意味で用いています。ちなみに「万歳」は伝来語です。大正13年、日本連盟創設者の一人佐野常羽氏が、日本人で初めて世界のボーイスカウト指導者養成訓練「ギルウェル指導者訓練所」に入所した際に、イルソン所長は入所していた13か国の全員に「各国のスカウトの祝声をやってみよ」と言いました。日本連盟は古語の「いやさか」を使っていたので、佐野常羽氏は「いやさか、いやさか、いやさか」と3回叫び、「この言葉は、良いことはますます良くなるように、禍は転じて福となるようにという意味がある」と説明すると、イルソン所長は非常に喜んで、「発声法は日本が一番良い。その上、哲学が入っている。」と称賛して、「これから、このいやさかをもって本訓練所の祝声とする」と言われました。それ以来、ギルウェルの正式な祝声として用いられ現在に引き継がれているとともに、発音は若干異なるものの、世界共通の祝声として「いやさか」が採用されています。

**保護者の皆様へ**

保護者の皆様におかれましては、日頃よりボーイスカウト隊活動へのご理解とご協力に感謝申し上げます。私事で大変申し訳ありませんが、病氣療養のため、2ヶ月間入院することになり、当分の間、ボーイ隊長は佐藤副団委員長が代行することとなりました。スカウト及び保護者の皆さまには大変ご迷惑をおかけいたしますが、事情をご理解いただき、今後ともボーイ隊へのご理解とご支援ご協力をお願い申し上げます。  
 ボーイ隊長 下山 良子